



## 青島日本人学校便り



青島日本人学校 小松 直久

中国東北部山東省に位置するここ青島は、どこまでも青い海、ドイツ統治時代の面影が残る赤レンガの旧市街と急速に発展を続ける市街地、そして何といても美味しい海鮮と青島ビールが有名な、風光明媚な港湾都市です。人々は優しく、気さくで、笑顔で話しかけてくれる方がとても多いです。

青島日本人学校は小学部中学部合わせて60人ほどの小さな学校です。少人数ならではの特性を生かし、児童生徒一人一人に寄り添い、共に学び、全員が活躍できるように、職員一同力を尽くしています。青島日本人学校は今年度創立20周年を迎えました。昨年11月には、在青島日本国総領事館総領事をはじめ青島日本人会や学校運営理事会の理事の皆様、青島市政府や現地小学校の来賓もお招きして、記念式典を盛大に開催することができました。創立時は中国の学校施設を間借りし6名の児童でスタートしました。新校舎を建て、現在に至るまで、本校を支えてくださった在外公館の皆様、各企業の皆様、保護者の皆様のお力添えは、大変大きいものがあります。そのつながりの深さは、外国の地で運営される日本人学校ならではの深さです。

青島日本人学校の大きな特色の一つには、現地の小中学校等との交流に力を入れている点が挙げられます。日中関係が冷え込んだ時期もありましたが、現地教育局・小中学校など、心ある皆様の御理解をいただき、子どもたち同士の心温まる文化交流を実施することができました。小学部は普段から力を入れている和太鼓演奏を披露したり、折り紙や日本の遊びなどをしたりして交流しました。普段勉強している中国語や英語を使ったり、時にはジェスチャーを交えたりしながら一生懸命に伝えようとする子どもたちの姿がありました。子どもたちの外国語教育への意識も高いです。中学部は英語を使って現地の中学生と交流をしています。司会進行やルール説明等、すべて英語で行い、日ごろの学習の成果を発揮するとともに、日本と中国のそれぞれの文化を伝え合いました。また中学部では今年度初めて地元の大学生との交流もスタートさせ、多文化理解への新たな一歩を踏み出しました。日本人学校ならではの体験を通して、国際色豊かな子どもたちが育っていることを感じています。

私が青島日本人学校に赴任させていただき、改めて学んだことの一つは「お互いを尊重し違いを認め合う」ということです。相手を知ろうと一歩近づいたとき、相手も心を開いてくれることを感じています。長野県で学んだことを青島日本人学校で活かしたことは大変幸運なことでした。今後も目の前の子どもたちの成長のために、精一杯努めてまいります。



旧市街から青島の街並みを望む



現地校との交流



太鼓演奏



開校20周年記念式典